

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103142		
法人名	有限会社ネオファミリー		
事業所名	ネオファミリー・和歌山	【ユニット名:】すみれ	
所在地	和歌山市田中町2丁目19番地		
自己評価作成日	平成23年11月16日	評価結果市町村受理日	平成24年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は和歌山市の中心市街地に位置し、一般住民も入居する7階建ての2階・3階を改築しグループホーム(2ユニット)を運営しています。敢えて市街地で運営することには意味があり、元々人家や商店等が多く立ち並んでいる環境で生活されていた方々も居るなかで、そのような方々にしてみれば、最も安心でき、やすらぎを感じられる土地柄ではないであろうか、という意味合いからであります。そのような環境の中でネオファミリー(新しい家族)として職員全員が我が家のように、感じてもらえる介護を実践しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103142&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

マンションの2・3階にある2ユニットのグループホームである。買い物や交通の利便性があり、すぐ側には中学校や公園もあり、地域住民の生活が感じられる環境である。入居者が「ネオファミリー」の生活に溶け込み、家庭的な雰囲気支援のなかで居心地よく生活できるよう取り組んでいて、自然と皆がリビングに集まってきて入居者同士や職員との関係も良好に保たれている。管理者や職員のケアに対する思いが強く、開設から9年の歴史の中で経験したことを活かして心のこもった暖かいサービスを提供できるよう努め、会議や勉強会を通じてスタッフ間の意思統一が図られている。医療機関と連携体制が構築されており、重度化やターミナルの支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域と共に地域と歩む・やすらぎ・安心・よろこび』の理念を念頭に実践している。また、事務所・ユニットに掲示し再確認を誘発している。	理念を食堂の壁に掲示している。職員全員が理念を実践できるように意識し、管理者やリーダーが中心になって話し合いの機会を持ち、日々の業務で理念を共有できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域貢献の意味合いから、毎週水曜日にゴミ収集場を利用者を交え掃除しているが、日常的な交流にまでは至っていない。	週2回のゴミ収集日に合わせてマンション周辺の清掃を入居者を交えて行っている。また、常時職員がいることで、事業所がマンション住民から頼りにされる存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や近隣住民へのアプローチをすることで介護相談等もあり、ケースに応じた支援方法等のアドバイスも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況を報告し、地域包括職員や住民の方等による助言や評価を戴きサービス向上に努めている。	2ヶ月に1度実施しており、会議で出された意見をサービス向上に反映できるよう取り組んでいる。出席者に家族以外の地域住民がなく、職員や家族など事業所内のメンバーが中心の構成となっている。	いろいろな立場の地域住民の参加が得られるよう、意見を述べやすいようなテーマを設定したり、出席しやすい曜日や時間帯を検討するなど、更なる努力に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険課、生活支援課の方々には積極的に相談やアドバイスを頂くように取り組んでいる。	市役所と近距離にあり、介護保険課へは出向いて相談や報告を行うことが多いことから、市職員とも顔見知りとなり良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を正しく理解できるよう勉強会を含め身体拘束のないケアに取り組んでいる。夜間のみ外部からの侵入防止の為玄関施錠している。	事業所内の勉強会でも取り上げ、言葉による拘束など目に見えない形の拘束も意識して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、各フロアのエレベーターに通じる入り口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止についての理解を深め、不適切なケアが行われないように取り組んでいる。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、制度の在り方を意識付けしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始前に利用者や家族さんには十分説明し、理解を得ている。またサービス開始後も必要に応じ説明し、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や利用者との日常何気ない会話の中で、意見や要望等を傾聴するよう心掛けている。また意見箱の設置もしている。	設置している意見箱に投函されたことはないが、個々の入居者や家族が意見を出しやすい関係作りを心がけ、要望にはできる限り迅速に対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し易い雰囲気作りを心掛け、職員会議や申し送り等で意見や提案を聞き、検討し職場の環境改善に努めている。	管理者と職員の関係性は良好であり、外部研修で学んだこと等を事業所内で発表する機会を設けて話し合い、サービス向上に努めている。また、職員の前職を活かした意見や提案を取り入れ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康管理を含め、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧で廻し、希望に添った研修の機会を設けている。また、力量に応じて、適切な研修のすすめも行っている。研修参加後は学んできたことを職員会議等で発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広範囲に於けるネットワークには至っていないが、同業者との交流の中で運営に関する情報交換は行っている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から知り得た情報を基に、本人に寄り添い傾聴する中で、受容と共感を念頭に不安なことや要望等を受け止め、早期安心のおける関係・環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ち要望や不安なことを傾聴し、早期解決に努めることでより良い関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの本人の情報収集や今現在の悩みや要望等を聞き取り、課題を見出し広い視野で考え対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊厳を大切に守り、暮らしを共にする家族としての相互関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員が家族との関わりをもち、共に支えあうことのできる関係作りに努めている。面会時や電話連絡により近況報告し、時には家族の協力を得て本人を共に支える支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に数回ではあるが馴染みの人の面会がある。また、家族さんの協力も得て、墓参りや法事、行きつけの美容院にも出掛け、関係が途切れない支援に努めている。	なじみの場への想いを大切にして、家族にも働きかけている。関係維持が困難になった入居者のために慣れ親しんだ風景や自宅周辺を職員がビデオ撮りしてきて共に観賞し、やすらぎが得られたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「ネオファミリー」新しい家族との意味合いもあり、家族としての橋渡し役等を含め、孤立感を感じさせない支援に努めている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は電話のやり取りや、遊びに来られたりとの関係を継続している家族さんもある。また、時折ではあるが本人さんから電話を戴くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や表情にあらわれる本人の思いや希望を、くみ取るように努めている。また、困難な場合には家族と相談し検討している。	個々の生活リズムに合わせた関わりをしている。意思疎通の回り方についても個性を尊重して、本人の思いや意向をスタッフ全員が把握できるように努め、本人主体を念頭においてケアが実施されている。	得られた情報を職員間で共有し、さらにその人らしさに沿ったケアが提供できるよう、アセスメントツールを活用して記録する等の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に家族や医療機関等より出来るだけの情報収集に努め、サービス開始後も家族や本人より新たな情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に於けるその日の心身の状態を観察し把握するよう努め、職員一人一人の気付きや意見を申し送りや連絡ノートを活用することで情報を共有するよう取組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議等にて個々の現状に添ったサービスの意見交換を行い、介護計画・モニタリングに反映させている。	スタッフ間の意見交換や確実な申し送りがされてチームケアができてはいるが、介護計画はやや抽象的であるため目標達成の内容が曖昧になっているところが見られる。	計画の内容がより明確になる目標を設定し、その人らしさを活かした具体的な援助内容を記載することで、職員間で共通意識を持ち活用しやすい計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外に申し送り等で気づきや意見を交換し、注意点等があった場合は、口頭での申し送りだけでなく、申し送り帳に記入し、チーム全体で共有し介護計画の見直しに活かすよう実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに添ったサービスの取り入れを視野に入れ支援するよう取組んでいる。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(警察、消防、民生)との関わりにより安心して生活できるよう支援しているが、全ての地域資源の活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が当施設の協力医療機関の往診を希望される利用者が殆どで、必要に応じ主治医の紹介と家族の協力を得て、専門的な検査や診察を受けられる支援をしている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重している。ユニット毎に関わりの多い協力医療機関は異なっており、それぞれの医師による定期往診等の協力が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に日々の気付きや状態を訪問時や電話相談により適切な指示、指導を受けている。また、主治医に同行する看護師とも相談等の連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療従事者に情報提供書による説明を行い、早期退院に向けての情報交換や退院後の受け入れ態勢やケアについても相談するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期や重度化した場合には、家族や本人の意向を踏まえ、事業所での出来ないことを家族さんや関係者等で十分話し合い、医療・家族・介護等のチームで取り組んでいる。	本人や家族と十分に話し合い、希望があれば看取りケアも実施する。医療機関や家族との連携を密に行い、入院時には医療機関に対する情報提供を行い、退院時にはスムーズな受け入れが可能となるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを含め、応急手当や初期対応についての内部研修を行い、緊急時慌てず落ち着いて対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	中消防署予防班の方々との話し合いができており、避難場所や避難ルートを職員全員が把握している。また、年2回の訓練や内部研修も行っている。	消防署の協力を得て防災訓練は年2回実施している。事業所がマンションにあるため火災警報器はマンションと共有であるが、防災訓練は事業所単独で行っている。	事業所の防災訓練が近隣住民の防災意識向上に貢献できるようにマンション住民の参加を呼びかけ、ともに災害時の協力体制の構築を望みたい。

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や性格を尊重し、気分を害さないよう思いやりのある声かけを心掛けている。また、他の利用者の前でもあからさまな声掛け(排泄促し)をしないように配慮している。	職員は一人ひとりの利用者の話を熱心に傾聴し尊厳の気持ちを持った呼び方や話し方をしている。プライバシーに配慮して、プライドを傷つけないように接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より思いや希望を表現しやすい雰囲気作りを心掛け、可能な限り自己決定していただくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを崩さぬよう、思いを汲み取り可能な限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により訪問理美容や行きつけ店への支援も行っているが職員に美容師免許取得者がいることで、馴染みの関係をたもちつつその人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で同じものを一緒に食べることは出来ているが、準備や片づけに関しては、大半が職員で行っている。	摂取ペースに配慮しつつ、食事中はスタッフや利用者同士の会話が弾み和やかである。入居者の意見を取り入れたメニュー作りで、調理や配下膳への参加は自主性を尊重している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量についてはチェック表等で個々の状態や習慣に応じた支援(嚥下状態に添った)をしている。栄養バランスについては専門的観点からのチェックは出来ないが、1600calを一日の目安としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の生活習慣もあり毎食後とはいかないが、口腔状態に応じた支援や、本人の力量に応じた口腔ケアを行っている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムに合わせた支援をしている。また、早めの声かけによるトイレ誘導を行い、不快な思いをすることのないように努めている。	個々の排泄リズムを把握して、さり気ない声掛けやトイレ誘導で失禁予防に取り組んでいる。入居時おむつを使用していたが、トイレでの排泄が可能になった例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理の大切さを理解し、水分補給や軽い運動を行うことで便秘予防に努めている。また、主治医とも相談し個々に応じた対応で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については十分確保できており、一人ひとりの思いを聞きながら入浴支援をしている。また、必要に応じ2人体制で支援している。	入浴時間は本人の希望に沿うように支援している。入浴を嫌がる場合は原因を確認して解決策を講じている。本人のタイミングを見つけて声掛けをし、最低でも週に1回以上の入浴が実施できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその日の体調等を考慮し安心して休息できるよう空調の調整や音量等にも配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情については、個々の薬ケースにつけ熟知を図り、薬の変更があった場合には薬剤師に連絡を取り、説明や相談を行い連携を図っている。また、服薬の支援も個々の状態に合わせて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯物を分けて畳んだり、自室の掃除や共有空間の掃除等で個々の役割や張り合いの楽しみを見出す場面作りで支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、近所の公園に散歩に出掛けたりコンビニ等に買い物に出掛けている。また、ベランダを利用し外気に触れていただけるよう配慮した支援をしている。	要望があればコンビニへ買い物に出かけられるよう個別に支援している。全員に声掛けを行い、公園へ散歩に出かける機会を設けている。また、職員とともに近くのスーパーへ食材の買出しに出かけることもある。	以前実施していた外食の再開や公園へお弁当を持参するなど、日頃閉じこもりがちの人にも外出の機会が持てるよう、出掛けるのが楽しみになるような企画の工夫に期待したい。

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態にあわせ家族と相談の上、嗜好品などに使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に添って連絡することの支援を行っている。また、届いた手紙や電話の取り次ぎも本人にしている。携帯電話をお持ちの方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた装飾品を飾り、不快にならないように音量や光量、室温にも配慮し、居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	食堂とリビングは季節感を取り入れた手作りの装飾品や皆で制作した作品が飾られていて、家庭的な雰囲気である。共用スペースは十分な自然光が入り、リビングのベランダや窓から町の風景が眺められ季節や天候を感じ取ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分な広さではないが、利用者同士でのんびりと雑談したり、テレビを見たりできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等の持ち込みは少ないが、その人らしく過ごせるようテレビやテーブル、小物や家族写真等が持ち込まれている。	各個人の居室にそれぞれの個性が現れていて、その人らしさが大切にされている。本人や家族と相談して使い慣れた物や家族の写真に囲まれ落ち着いて過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を付けることで場所の把握に努め、また障害物等をなくすことで安全に生活出来るよう配慮している。		